

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホーム こうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12番9号		
自己評価作成日	平成25年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

水俣市のほぼ中心部に位置し、周辺は住宅街で近隣には八百屋・苗物屋・味噌屋などがある。又、バスの停留所やタクシー乗り場もあり交通の便がよく、立ち寄りやすい。水俣市総合医療センターが近くにあり緊急搬送の安心にも繋がっている。広く明るい敷地でゆっくりと入居者のペースで過ごせるよう、又入居者の思い寄り添うケア、笑顔あふれる暮らしを心がけ支援している。家族との絆を大切に、ご家族や面会の方が行き来しやすい雰囲気づくりを心がけている。法人内の研修や外部研修にも積極的に参加し学べる職場環境に恵まれており専門職業人として質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に開設したホームは「長く生きてこられた方々に後半は楽しく過ごしてもらいたい」との代表の思いが込められた“こうらく”というネーミングの実現に全員が専門職としてケアを提供し、様々の視点からの情報収集、観察力を活かしたケア姿勢が最高齢100歳という中でも自分の意思を持った生活や他人を思いやる心を持ち続ける方等本人本位の日常を支援している。また、この1年入院も無いことは日々の職員の体調管理の徹底の賜物であり、更には知識や技術の向上にまい進する職員のモチベーションは高く、笑顔での明るい対応や寄り添いのケアが入居者の和やかな生活として生かされている。家族との関係も構築し、全職員での業務見直し等職員同士の意思疎通も良好である。「わたしは わたしなりに 生きていきたい」とする利用者視点と、「私たちは地域とともに寄り添い心豊かな暮らしを支えます」の理念の実現に、家族や地域住民及び友人等の支援を受けがらの温かいホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員間で共有し、基本的ケアの指針を個々に理解し日々実践している。	「私はわたしなりに生きていきたい」「私たちは地域とともに寄り添い心ゆたかな暮らしを支えます」と利用者と職員双方から理念と、理念を具現化した基本的ケア指針は開設時職員の思いを話し合っ作成している。全員に理念が浸透し、入居者への共感と受容、傾聴する姿勢や個別ケアに表出している。ホームとしての年間目標を中間評価、最終評価を通じて職員個々の能力の向上や活力ある組織として事業運営に反映させている。また、運営推進会議の中で理念の啓発を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に近隣の方に参加してもらい、散歩時や近所の八百屋に買い物に行ったりする際には声をかけられたり、傾聴ボランティアやハーモニカ演奏の慰問等あり交流出来てきている。	自治会に加入し区費の支払いや回覧板渡しに入居者と一緒に出かけたり、近所からの野菜のおすそ分けや近隣住民によるホームの畑作り・草花の管理等近隣から優しく見守られたホームである。散歩や買い物時等地域住民からの声かけ、ボランティアの訪問等により交流を行っている。	地元活動への参加等ステップに向け地域に出かける手段(地元の活動のリサーチ等)を全員で検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に地域サポートセンターを設置したことを伝え、地域の相談窓口として利用してもらえよう伝えている。又、運営推進会議の時に家族より介護相談等も受けておるため、今後も相談窓口として役割を高めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・活動・研修等の報告を行い、情報提供している。又、地域の活動や市・包括支援センターからの情報やアドバイスを取り入れ、質の向上に努めている。	自治会長・民生員・家族代表・近隣住民・行政・地域包括支援センター等をメンバーとしてホームからの報告後、参加委員の意見を基にした意見交換が行われている。在宅介護相談や地域の高齢者対策等の検討や、行政・地域包括からの情報提供や委員の行政からのアドバイスを得る機会として生かされている。行政の動向を知る機会や地域高齢者の状況把握等有意義な会議である。	ホームの課題を事前に提議した案内により、委員からの提案や意見等を更に引き出し、今後も運営推進会議を生かした取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型部会を通して相談・情報交換し、協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議案内の持ち届けや介護申請書類提出に出向き情報を発信し、地域密着型部会での情報交換や研修会に参加しケア向上に取り組む等顔の見える関係性の中で、行政担当者等との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会の研修に参加し、身体拘束に関する知識を習得し、各個人の意識の向上に努めている。言葉の拘束に気をつけており日々の言葉使いに気をつけ、お互いに注意しあえるようにしている。	法人での身体拘束廃止委員会での研修や事例検討により意識向上を図り、“ことばの拘束”については特にチェックリストにより振り返ることにより意識付けとして職員同士が注意喚起している。入居者の外出傾向の把握や“外に出たい”という思いを察知することで離設対策とする等事例を通じて全員でカンファレンスを開催し職員同士の連携強化に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体研修に参加し学ぶ機会を設けることができおり、個々に内容を理解し高齢者の虐待防止に努めている。言葉の拘束に気をつけており日々の言葉使いに気をつけ、お互いに注意しあえるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で権利擁護の研修には全員参加し、学んでいる。又、外部研修にも参加し学ぶ機会を持っている。それぞれの必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項説明書に従って説明を行い、利用者又は家族の不安がないかを聞きながら不安・疑問を把握し、解決・理解を得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に利用者の状況を報告。要望・意見が聞けるような雰囲気をつくるよう努めている。又、運営会議を通して必要な情報を提供している。	入居者と職員との関係が構築し、日々の会話や1対1のケア・寄り添いのケアにより要望等を把握している。家族は頻りに訪問されており、訪問時に現状を報告し意見や要望等を収集し、申し送りノートにより共有化や重要案件は全員で検討している。意見箱やメモ用紙の用意もあるが利用は無く、家族の要望に個別に便りを作成したり、家族とのメールにより情報交換等も行われている。	家族も参加された敬老会が家族同士の交流の機会として生かされている。更には家族が集まれる機会に家族同士の話し合いの場を作ったり、運営推進会議の内容や検討課題等の情報発信源としてホーム便りの活用等検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議にそれぞれ職員の意見や要望、提案は聞く機会を設け業務に反映させている。	日々の申し送り後職員の気づき等の話し合いや緊急性がある場合にはその場で検討し、問題点は毎月開催する運営会議の中で話し合うこととしている。全員でグループホームらしくしたいという考えのもと、業務の見直しや入居者の要望(入浴等)を話し合い、法人全体で行う各委員会や目標設定、定期的な評価、個別面談等を継続して実施し、全体的なケア向上への繋いでいる。安定した職員体制や風通しのよい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境は整っている。各自、学ぶ機会も多くあり、希望休も取れるよう勤務調整も適宜行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量により役割分担、又法人外の研修には案内を早めに出し各自学べる機会を設けている。実績を通しながらトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会や水俣・芦北ブロック会など他の事業所との交流を築いている。部会・ブロック会・包括主催の研修にもすすんで参加し、相互の関係を保ちながら質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時と本人の不安・要望をゆっくり時間をかけ聴き取り、本人の生活パターンを把握し入居前の生活に近い環境づくりをし安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安、相談もゆっくり時間をかけ聴き、ご家族との情報の共有と面会時に要望等言いやすい雰囲気をつくり信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞き、確認を取りながら必要とされた支援の見極め、確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ屋根の下で生活を共に生活をするものとして日々関係づくりに努め、その人の出来る事・能力に応じて共に支えあって生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告・連絡・相談を細めに行い家族の協力をお願いし共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係が継続出来るよう訪問しやすい雰囲気づくりや、イベントの際にはお知らせし一緒に楽しんで過ごしてもらえるよう声かけを行なっている。関係が途絶えてしまわぬよう努めている。	個別の生活歴やライフスタイル等を把握し、馴染みの関係性の継続に努めており、家族・友人の訪問が多く、訪問される友人等には来訪を依頼している。また、自宅を確認に一緒に出かけたり、敬老会に家族のみならず友人にも参加を呼び掛け、家族支援による墓参や教え子からの年賀状が届く方等もあり、これまで関係性が途切れないよう、必要な支援を見極め支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解し、関係が良好に保てるように努力している。関係性がうまくいかなかったようなときは、お互いの話を傾聴し適宜調整を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は必要に応じて相談や支援に応じる体制は出来ているが、実際に相談されることはない。これまでの関係性は大切にし途絶える事のないよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向はほぼ取り入れており、要望等を伝える事が困難な場合にはご家族・日々の本人の言葉、行動からくみ取り職員間でカンファレンスし本人の思いに添えるように努めている。	職員は一人ひとりに寄り添い、よく会話を交わしその中から思い等を把握したり、伝えたい事が言葉にならない入居者には表情等から推察し、家族に相談しながら本人本位になるよう努めている。職員の五感を活かしたケアや自信を引き出す声かけが穏やかな生活となる等、気づきを把握した希望等を話し合い、プランに反映させ実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴の情報収集や知人の面会時に本人の暮らしぶりの情報を聞き生活環境把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方を把握し日々の心・身体の状態の変化を細かく観察し、出来る事の継続、有する能力を引き出していけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよい暮らしが出来るように本人・家族職員間で話し合い、介護計画に結びつけることが出来るよう意見を出し合っている。	入居1ヶ月間は情報収集や観察期間として認知・身体等のチェックを徹底と、本人や家族の意見・要望等聞き取り、プランの立案に反映させている。1ヶ月毎のモニタリング、3ヶ月毎に評価し、6ヶ月で見直している。また心身の変化時のカンファレンス等もプランに反映させている。日々の職員の観察力が生かされた、具体的且つ詳細なプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画サービス内容に沿ってケアの実施し、変化や気付きは都度記録に記入し情報共有を行なっている。記録を通して申し送りを行い介護計画見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じてニーズに合わせたケアの提供と残存機能を活かした支援等柔軟な対応を行なって行けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの受け入れやバンド演奏の慰問、近所のお店に出向いたり顔見知りになれるようにと地域資源を把握し心豊かな暮らしをおくれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医での受診が継続できており、安心・信頼が損なわれないよう医療との連携を築いている。必要時家族へ相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続し、家族対応での受診を基本に状況や状態によっては職員が同行している。受診時は医療機関との連携を図り、受診ノートでの情報提供でスムーズな受診に繋げ、家族・職員間で結果を共有している。個々の既往症によって必要なチェックを実施し、体調によって受診から往診へ変更したり、職員の早めの気づきで今年度は入院された方もなく入居者の体調管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で変化や気づき等の情報を共有し必要時受診につなげ早め早めの対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際のサマリーで情報を提供し病院関係者との連携をとっている。状態の把握、情報交換を行い早めに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に応じて今後起こり得る過程を家族と話し合いながらどういう風に看たいのか方針を共有し関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居時に重度化時の対応や看取りに関する指針をもとに説明し同意を交わしている。体調変化時は主治医を交えた話し合いや家族の意向を確認し個別に対応している。又、家族の意向が変わることを視野に、医療との連携やホームでできる対応について繰り返し話し合っている。外部のターミナル研修へ参加し、ホーム内でも復講を実施し、本人・家族の希望により支援する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を研修で繰り返し訓練し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行い地域との協力体制を構築している。	火災訓練を実施する際は運営推進会議での声かけや地域へのポスティングにより参加を呼びかけ、夜間想定訓練に参加が得られている。又、日々の火元チェックにより先ずは火を出さない事とし、居室入口に個々の身体状況を記し有事に備えている。自然災害マニュアルを整備し、避難場所の確認や備蓄を準備しており、地域の津波訓練にも参加を予定している。	日々防災意識を高めて臨まれているが、地域の中にあるホームとして昼間はホームが地域に出来ること、夜間は近隣住民の協力が不可欠であることなどホームの還元も視野に運営推進会議等で検討いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の身体拘束廃止委員会の研修に全員参加しており、一人ひとりを尊重した丁寧な対応を心がけており意識も高くなってきている。	職員は接遇研修により入居者一人ひとりのこれまでの人生に敬意を払い言葉遣いへの配慮や敬語での対応に取り組み、言葉かけ等で気になる時にはお互いに注意しあえる環境作りに努めている。プライバシーや羞恥心に配慮した対応はトイレの手作りカーテンや居室入口の暖簾・ポータブルトイレのカバー等に表れており、個人情報の取り扱いを遵守し入居者の笑顔あふれる暮らしの支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとした姿勢で傾聴し思いに耳を傾けて、本人の言葉から探ってゆき意思表示をくみ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されないようにして本人一人ひとりを主体に暮らしぶりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔・整容はゆっくり身だしなみを整えられるよう配慮している。必要時、着替えをすすめるなどおしゃれが出来るよう、またおしゃれが楽しめるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日に食べたいものやおやつ嗜好品などの好みを聞きながらメニューに取り入れ食事を楽しんでもらい、食事準備を一緒に行ったりしている。	法人栄養課の献立を基本に本人の好みを取り入れた誕生食や季節毎のイベント食等にはメニューを変更しながら提供し、GH連絡協議会では各事業所からのメニューを持ち寄り情報交換している。入居者は下ごしらえやおやつ作り等に関わったり、食事前には口腔体操をしながら、職員と一緒に食卓を囲み大家族のような楽しい時間を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立に基づいてバランスの良い食事と水分も一日の必要量を確保しながら、その人の状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはきちんと行っており、口腔内の状態観察し本人に応じたケアを提供している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンやサインを把握しトイレ誘導を行い、失敗やおむつの使用を減らし自立にむけ支援している。	排泄チェックで個々のパターンを把握し、自分でトイレに行かれる方でも職員が確認し、食事前後のトイレ誘導やサインを見逃さないように日中は全員がトイレでの排泄を支援している。又、個々に応じた排泄用品の使用等により失敗の減少や自信に繋げ、夜間はポータブルの使用もあり、臭気対策を行い清潔に使用されている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として補水を充分行い、野菜や食物繊維をしっかり摂りながら個々に応じた運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する前に本人に希望を聞きながら確認をとっており、入浴の順番も考慮しながら支援している。	バイタルチェックにより入浴可否を見極め、時間や順番等の希望を聞き取り、毎日の入浴希望に応えたり、汚染時等はその都度対応している。身体状況によっては二人介助で安全・安心の支援としている。拒否に対しては誘い方の工夫等で間隔が空かないよう努め、入浴剤やゆず湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを事前に情報収集し休息枝の支援を行っている。気持ちよく眠れるよう環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の確認を一人ひとり行っており用量・用法についてもチェックを行っている。また副作用についても確認し注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に応じて外出・家事洗濯物たみなど張り合いが持てるように支援を行っている。特に食に関しては美味しく食べていただけるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や地域の人との協力はなかなか得られないが、気候のいい日は個別に外出を行っている。	車いすでも出かけられる近隣の散歩や玄関先での外気浴、ウッドデッキでの食事など戸外での気分転換を図り、季節の花見(桜・コスモス等)や鯉のぼり見物等を楽しんでいる。又、受診も外出の機会と捉え、希望の買い物や家族の協力での帰省や外出等を支援している。	車いす利用もあり、遠出はできない様である。家族等と相談しながら、今後も戸外に出かけられるよう支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別により一人ひとりの力、家族の要望に応じてお金を所持し、希望時使えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時にはいつでも電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間はもとより、トイレの中でのプライバシー保護のため、カーテン設置し見えないようにしている。又、季節の花を生け居心地の良い雰囲気を作れるよう工夫している。	高い天井や解放口の広い明るい窓からは庭の木々が眺められ開放的なホーム内には、入居者の書の大作や、入居者目線に掛けられた時計、手作りのカレンダーや、明り取りの眩しさ対策にも職員のアイデアが活かされ温かさに満ちている。温湿度管理や清掃が徹底され快適に過ごす事が出来、玄関やホーム内に活けられた花々に季節感が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が共に過ごせるよう、一人ひとりが好む場所で思いおもい過ごせるようにソファを置き、居場所づくりに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着けるような見慣れたものを置いたり、居心地良く過ごせるよう家族の協力を得て工夫している。	花の名前に合わせたスタンドガラスが扉にはめ込まれた居室は一人ひとりの個性的な住まいとなっており、大型の家具や書籍・テレビ・カーペット等を持ち込み、家族写真や知人からのハガキ等が飾られている。エアコンの風や身体状況に合わせたベッド配置や居室で新聞を読んだり、自ら掃除をされる等これまでの生活線上を思わせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはわかりやすいように本人の力に応じて目印などを付け、廊下・食堂の環境整備を徹底し、安全で自立した生活が出来よう工夫している。		